

清流の国ぎふ防災・減災センター
げんさい未来塾
令和8年(2026年)度塾生募集要項

1. 概要

清流の国ぎふ防災・減災センター（以下「センター」という）は、岐阜県と岐阜大学によって共同設立されたセンターです。センターの目的は地域防災力の強化に向けた人材育成・普及啓発事業の実施、技術支援および調査研究であり、「清流の国ぎふ防災リーダー育成講座（基礎編）」をはじめとした、地域で防災・減災を主体的に担う事のできる人材の育成に向けた研修プログラムの提供を行っています。

「げんさい未来塾」は「清流の国ぎふ防災リーダー育成講座（基礎編）」のステップアップ研修的な位置づけとなっており、地域防災・減災について主体的に担うことのできる人材を、実際の地域防災・減災の現場における実践を通じて育成するプログラムです。

令和7年(2025年)度のげんさい未来塾最終報告会をげんさい楽座として令和8年3月8日に岐阜県庁で開催しますので、応募を検討されている方はぜひご参加ください。詳細は追ってセンターのホームページ (<https://gfbosai.jp/>) で公開予定です。

2. 募集人員

5名以内

3. 応募資格

応募することのできる者は、原則として岐阜県内に居住するか岐阜県内で勤務するか、県内の事業などに係わるなどしている者であり、地域の防災・減災を主体的に実践する事を志す者であり、以下の(1)～(3)を満たし、かつ、(4)～(7)のいずれかに該当する者とします。

- (1) パソコンを使って報告書やプレゼンテーション資料の作成ができる者（必須）
- (2) 電子メールでの連絡が可能で（注）、ブラウザの利用などインターネットの利用ができる者（必須）
- (3) 主催者が指定するプログラム（入塾式、研修（3回程度）、中間発表（合宿形式）、最終報告会）に原則として現地参加できること（不安な場合はご相談ください）
- (4) 清流の国ぎふ防災・減災センター主催の「清流の国ぎふ防災リーダー育成講座」を修了した者
- (5) 岐阜県内市町村などが主催の地域防災リーダー育成講座を修了した者
- (6) (4)及び(5)に掲げる講座と同等以上のカリキュラムを提供しているとセンターが認めた講座を修了した者
- (7) 既に地域防災・減災の現場で(4)～(6)に掲げる者と同等以上の実践を行っているとしてセンターが認めた者

注) 電子ファイルを添付したメールの送受信ができること。

4. 応募期間

令和8年（2026年）3月2日（月）～4月30日（木）（当日必着）

5. 応募書類（フォームへの入力を含む）

（1）げんさい未来塾塾生願書、志望動機と実績調書、実践計画調書

フォームへの入力：<https://forms.gle/YemcHtPggZAFaJk8>

（2）応募資格確認書類

応募資格のうち（4）～（6）にあてはまる場合は、証拠書類（清流の国ぎふ防災リーダー認定証のコピーなど）を応募資格確認書類提出用メールアドレスに送付してください。その際、メールタイトルは「げんさい未来塾応募資格確認書類」と明記ください。

6. 実践計画調書について

実践計画調書には、防災・減災に関わって①ご自身の活動の中で達成したい実践の計画、又は、②センターで提案する実践の計画、のいずれかを記入してください。

※参考資料にこれまでの卒塾生の実践計画テーマを掲載しています。

（1）「①ご自身の活動の中で達成したい実践の計画」を行う場合

希望するスーパーバイザーを以下から指定して、ご自身の活動の中で達成したい実践計画を記載してください。指導・助言を得る担当スーパーバイザーの活動内容などは別紙を参照してください。

- ・伊藤三枝子 清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター
- ・岩井 慶次 清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター
- ・栗田 暢之 清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター
- ・野尻 智周 清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター
- ・兒玉 靖 清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター

（2）「②センターで提案する実践の計画」を行う場合

資料1の中から取り組むテーマを選択してください。“希望するスーパーバイザー”の欄は、そのテーマを担当するスーパーバイザーを選択してください。

（3）申込フォームの24、25については下記の記入例を参考に詳しく書いてください。

24の記入例

私の地域では学校が避難所として指定されていますが、避難所の開設・運営マニュアルはまだありません。地域には高齢者も多く、このままでは、災害時に避難所が開設されても大変な事になってしまうのではと危惧しています。そのため、少しでも環境の良い避難所を実現するためのマニュアルを作ることと目的としています。

校区の避難所開設・運営マニュアルができれば、この目的を達成できたといえます。

5月～7月:既存の避難所開設マニュアル、避難所運営マニュアルを集める。また、被災地に行った経験のある人や、手記などから、避難所における問題、うまくいった事例などについて調べて、まとめる。

8月～10月:地域の防災訓練のメニューで、自分の地域で起きそうな問題、出来そうなうまくいった事例などを紹介する。また、各町内の防災担当を中心に、地域の避難所開設・運営マニュアルを考える有志の会の呼びかけを行うなど、一緒に考えるチームを作る。同時に、既存マニュアルを参考にしながらマニュアルの骨子を作る。

11月～1月:有志の会でマニュアルをまとめる。過去の事例でまとめた避難所の問題やうまくいった事例を取り込むようにする。事業所など連携が必要な所との調整を行う。

2月～3月:避難所開設・運営マニュアルを完成させる。1年では完全なものは難しいかも知れないので、その場合は、残された課題をまとめておく。翌年度の避難訓練で作成したマニュアルの検証が出来ればと思います。

7. 応募手続

応募書類を所定の期間内に、5で記したフォームから送信するか、下記へ電子メールにて提出してください。これらの方法以外の送付は無効となりますのでご注意ください。応募書類を受け付けた場合には受信確認メールを送信します。万一受信確認メールが届かない場合には、13の問合せ先までご連絡ください。

応募書類提出先：清流の国ぎふ防災・減災センター
gfbosai@t.gifu-u.ac.jp

8. 費用

本プログラムの受講費用は無料です。ただし受講に関する資料代や旅費・宿泊費等実費は必要に応じて負担していただきます。

9. 入塾許可

応募者については書類審査を行い、書類審査通過者には地域防災・減災に関わる実践計画について面接審査を行います（5月22日（金）17時～）。面接審査受審者にはげんさい未来塾塾生としての受け入れの可否を通知します。

10. 入塾時期・期間

5月29日（金）午後7時から入塾式を行います。入塾式は対面とオンラインのハイブリッドで行います。履修期間は令和9年（2027年）3月末までです。ただしこの期間内に修了認定されない場合は延長することがあります。

11. プログラム内容

(1) 実践計画調書に基づく計画の遂行

実践計画は、塾生が主体的に進めますが、必要に応じてスーパーバイザーの指導・助言を得ることができます。

(2) OJT 型活動 1

センター主催・共催・協力などの事業での研修における事前準備・ファシリテーター・講師補助・講師などを行っていただきます。

(3) OJT 型活動 2

実践計画調書で希望した担当スーパーバイザーのそれぞれの領域における研修を受講していただきます(原則として担当スーパーバイザーの研修を受ける事になります)。スーパーバイザー別の研修内容については資料2を参照してください。

(4) 研修

必要に応じた研修の実施(地域防災活動を行っている人同士の交流、塾生のニーズに合わせた研修の紹介や実施など)。コミュニケーション研修、ファシリテーション研修、プレゼンテーション研修を行います(6/21(日)、7/5(日)、7/19(日)を予定)。【原則、現地参加】

(5) 中間発表

OJT 活動と実践活動の進捗確認と卒塾生を含めた塾生同士、担当以外を含めたスーパーバイザーとの交流の場として中間発表を行います(合宿形式で9/26(土)~9/27(日)を予定)。【原則、現地参加】

(6) 最終報告会

1年間のOJT 活動および実践活動の成果について、一般に公開して開催する最終報告会において報告を行います(令和9年(2027年)3月を予定)。【原則、現地参加】

- 塾生一人につきスーパーバイザー1名(担当スーパーバイザーの他、副担当がつきます)が担当します。受け入れ人数は応募者の希望状況によって変動する可能性があります。
- スーパーバイザーとの打ち合わせの頻度はおおむね月1回となりますが、必要に応じて増減する可能性があります。実際のスケジュールは入塾決定後、スーパーバイザーと塾生が相談の上決定することになります。
- OJT にはセンター主催の研修およびスーパーバイザーが提案する研修の2種類があります。OJT の全てに参加する必要はありません。参加の必要性については、入塾決定後、スーパーバイザーと塾生が相談の上決定することになります。
- センターおよび塾生の活動を広く広報するため、塾生の画像や氏名をホームページ、フェイスブック等で紹介します(差し障りがある場合は入塾式の際にお申し出ください)。

12. 修了認定

プログラムの参加状況、実践計画への取り組み状況、中間発表及び最終報告の成果物によって修了認定を行います。評価は、知識・スキル、人材育成力、ネットワーク・協働、企画運営実践力の4つの軸について、入塾前のレベルからの成長度によって行います。

規定のカリキュラムを修了したと認定された場合には、「清流の国ぎふ防災・減災センター げんさい未来塾 11期生」の称号を授与します。※ただし履修期間を延長した場合は11期ではなく修了期の数字となります。

13. 問合せ先

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

清流の国ぎふ防災・減災センター

e-mail : gfbosai@t.gifu-u.ac.jp

TEL : 058-293-3890

FAX : 058-293-3891

個人情報の取り扱いについて

応募書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報は、①入塾選考の実施、②入塾手続き、③入塾者の受け入れ準備、④今後の防災研修に向けた分析等の目的においてのみ利用します。

募集の取り扱いについて

この募集は、げんさい未来塾の開始を円滑に行うため、岐阜大学及び岐阜県の予算議決前に手続きを開始するものであり、当該業務にかかる予算が成立しない場合は、実施しないので留意してください。

資料1

防災・減災センターで提案する実践テーマ一覧

募集要項中「6. 実践計画調書について」の「②センターで提案する実践の計画」を選択する場合、テーマは下記のいずれか一つを選択してください。

この場合も、選択テーマについて、応募者自身が実践する事を前提としてご自身なりの計画を実践計画書にご記入ください。

番号	テーマ	担当スーパーバイザー
1	男女共同参画の視点を取り入れた、「地区防災」の提案をする。	伊藤三枝子コーディネーター
2	要配慮者など多様性に寄り添った「人にやさしい避難所」の提案を行う。	
3	災害時の食・アレルギー対策を考える。	
4	DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）、避難所立ち上げシミュレーション、逃げ時マップなどの既存のプログラムを参考に、実践的な災害研修プログラムやゲームを開発する。	岩井慶次コーディネーター
5	災害時に想定される実践的な、取り組むべき備えについて、ハード（ものづくり）、ソフト（しくみづくり）およびヒューマンウェア（ひとづくり）の総合的な視点から学べる場、プログラムを提案する。	
6	地区防災計画作成のためのワークショッププログラムを開発する。	
7	命を守る訓練の改善、学校の安全点検、安全安心マップの取り組みなどを活用した、学校防災の改善策の提案を行う。	
8	NPO 法人レスキューストックヤードに対する自治会・市町村・県等各レベルからの様々な「防災・減災研修会」を受託する中で、実際のプログラムの企画・立案、実践・運営を通して、より効果的な防災・減災活動の提案をする。	栗田暢之コーディネーター ※定期的にレスキューストックヤード事務所(名古屋市東区)またはオンラインで事前事後の指導を受け、必要な会議・研修等に参画する(10については発災時の適当な時期に現地入りする場合があります)。
9	NPO 法人レスキューストックヤードが取り組む避難所の環境改善に向けた事業の中で、諸課題等を整理し、災害関連死や健康被害を防ぐための方策の提言や人材育成ツールの開発等を提案する。	
10	全国各地で相次ぐ地震・水害・噴火等の自然災害に際し、災害救援NPOとして支援活動に従事する当法人の活動に参画し、緊急救援期から復旧期まで一連の対応について認識を深め、地元でのより有益な災害ボランティアの在り方について提案する（能登半島地震被災地での支援活動に参画することも可）。	
11	NPO 法人レスキューストックヤードが加盟する岐阜県災害ボランティア支援協議会等、関係する様々なネットワーク組織へのオブザーバー参画を通じて、より効果的な連携や多様なセクターとの協働について提案する。	

資料2

0JT 型活動2の研修プログラム一覧

0JT 型活動2は、どの研修を受けるかについては、各塾生とその塾生を担当するスーパーバイザーが相談の上決定します（担当するスーパーバイザーのすべての活動に参加しなければいけないわけではありません。担当外のスーパーバイザーが提供する0JT活動でも、当該スーパーバイザーの承諾があれば参加できます。）。

- ・スーパーバイザー：伊藤三枝子 コーディネーター
 - 1) 防災講演や研修活動に参加し、意識・スキルの向上とともに、男女共同参画の視点を取り入れた、訓練の充実を図る。
 - 2) 「多様性のある人にやさしい避難所」の知識を深めながら取り組む。
災害時の食・アレルギー対策の実践を含めた取り組み。

- ・スーパーバイザー：岩井慶次 コーディネーター
 - 3) 学校の命を守る訓練などの取り組みを通じ、子供達の命を守る活動に関するスキルを体得する。
 - 4) タブレットを用いたDIG演習、避難所ワークショップ、学校管理下における災害時の避難の在り方、校内探究授業のカリキュラムなど
 - 5) 浸水害・土砂災害などからの「逃げ時マップ」ワークショップなどを通じ、災害ワークショップをできるような知識とスキルを体得する。
 - 6) アクションシートを活用した、地域の避難所の立ち上げ・運営スキルを身につけるための取り組みを通じ、同様の取り組みを実施するためのスキルを体得する。
 - 7) 防災減災に関わる県内広域ネットワーク化推進の取り組みを通じ、関連する知識とスキルを身につける。

- ・スーパーバイザー：栗田暢之 コーディネーター
 - 8) 地域における防災・減災のための研修会・訓練等の充実を図る取り組み
 - 9) 避難生活の環境改善を提案するためのツール開発や人材育成を図る取り組み
 - 10) 災害ボランティアの市町村域・県域・全国域のネットワーク構築の充実を図る取り組み
 - 11) 災害時に現地入りし、被災者支援活動に従事する取り組み

※野尻智周コーディネーター、兒玉靖コーディネーターは0JT活動2の提供はありません

参考資料

げんさい未来塾卒塾生の受講当時の実践計画テーマ一覧

	実践計画テーマ	塾生	主担当	副担当
一期生(2016年度)	防災の基本は自助である	井手行信	村岡治道	※
	地区への避難所運営組織の導入(地区防災計画の策定)	伊藤定巳	岩井慶次	※
	女性目線の防災	伊藤三枝子	西田重成	※
	防災・減災の啓発の拡大	伊藤道廣	岩井慶次	※
	地域防災の普及啓発に向けて	岩茸伸一	岩井慶次	※
	依頼に合わせた防災研修・講座を組み立てるための講座依頼シートの開発	黒田ところ	小山真紀	※
	地域の防災(士)を育てる防災エキスパートになるには	高木淳一	西田重成	※
	災害に強い地域づくり、アマチュア無線を活用した有事の際の通信確立にむけたネットワークづくり	平岡守	岩井慶次	※
	人とペットの災害対策	渡辺英毅	東善朗	※
	二期生(2017年度)	学校での防災教育計画を作成する	江川誠	栗田暢之
実効性のある自主防災組織の立ち上げと実践可能な地域防災計画の立案		疋田一男	岩井慶次 小山真紀 村岡治道	※
女性目線での災害弱者に優しい「避難所」への提言		藤村祐子	西田重成	※
自然災害に対する防災意識の向上(大雨)		水谷しのぶ	井坂泰成 小山真紀 高木朗義	※
三期生(2018年度)	焼岳の噴火に備えて	箕浦章浩	小山真紀 岩井慶次 村岡治道	
	家庭内DIGで地域防災	朝倉勝美	村岡治道	小山真紀
	避難所を頼らない生活	川田力	栗田暢之	村岡治道
	学区の防災意識を向上させる	川村輝威	小山真紀	西田重成
	自分の命は自分で守れる子を育てる防災教育の推進	額額友久	岩井慶次	小山真紀
	乳幼児を持つお母さん向けの対話型防災講座の開発	谷口美土里	小山真紀	西田重成
	災害時のペットの避難と備え	田原佐織	西田重成	村岡治道
	一步を踏み出す地区防災 災害時の車椅子サポート	藤井芳彦 二村チズ子	小山真紀	岩井慶次 栗田暢之
四期生(2019年度)	防災教育と地域連携～対話・つながり・発信～	大前雅紀	岩井慶次	小山真紀
	高齢者の迷いなき避難方法と訓練	磯方直美	西田重成	村岡治道
	アマチュア無線を活用した、非常時に通信の補完として機能する組織作り	金子恒紀	岩井慶次	村岡治道
	下呂市金山町金山第2区区民レスキュー隊結成	河尻正敏	小山真紀	村岡治道
	学校と地域連携を考慮した防災教育の提案	北平智久	高木朗義	小山真紀
	住民とともに作る避難カード	兒玉靖	井坂泰成	村岡治道
	気付きからはじめる防災・減災 福祉施設の職員も利用者も～「減災教室」「防災ゲーム」の開発と活用～	小林睦	高木朗義	小山真紀
	地域と進める防災	成原卓	小山真紀	村岡治道
	地域における防災・減災のための自助意識の向上	林豊子	村岡治道	小山真紀

	実践計画テーマ	塾生	主担当	副担当
五期生(2020年度)	聴覚障害者の防災 不安なく避難所で過ごせる情報発信	嶋田喜美子	小山真紀	村岡治道
	発災前後の行動計画を作ろう	伊藤章	小山真紀	栗田暢之
	災害時の食に備える	須美静香	岩井慶次	小山真紀
	命を守る地震対策～家庭における地震対策普及を目指して～	紅谷美代子	村岡治道	高木朗義
六期生(2021年度)	企業・団体等の組織における職員とその家族の防災・減災	國枝孝之	村岡治道	高木朗義
	災害時にも平時にも使えるフェーズフリーの福祉避難所	五十嵐浩子	高木朗義	小山真紀 岩茸伸一
	学校内の避難訓練を探究する	可知宏子	小山真紀	伊藤三枝子
	自助9割の意識を広げ、共助へ向かえる仕組づくり	新藤美智瑠	村岡治道	高木朗義 野尻智周
	自宅や職場、地域における被害の回避や低減を目的に、事前の取組(自助、事前の共助)の企画立案ならびに実践	杉山忠男	村岡治道	伊藤三枝子 野尻智周
	避難所における必要とされる防災用品	中嶋正司	栗田暢之	小山真紀
	高齢者の防災と避難	中村佐記子	高木朗義	小山真紀 野尻智周
	災害時の食と備え「ローリングストック」と「パッキング」	林喜美子	伊藤三枝子	高木朗義
	大八地区の防災意識向上	山本真紀	岩井慶次	村岡治道 岩茸伸一
七期生(2022年度)	実効性のある危機管理マニュアルの改善、合理的安全確保行動のための訓練の工夫、自分の命を守りぬく防災教育の改善	飯尾里美	小山真紀	岩井慶次
	介護施設の経営者として、介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)の作成をしている段階のため、ぜひご指導いただきながら、当介護施設・事業所ならではの具体的な計画を作っていきたい。	杉山寛子	伊藤三枝子	村岡治道
	被災者の健康面を配慮する避難所の環境の整備を通じたコミュニティ防災・減災活動の支援	畑吉節未	小山真紀	栗田暢之 伊藤三枝子
八期生(2023年度)	地域の小学校に防災クラブを作り、その活動を通じて、「子ども達への防災意識の啓発」の方法やスキルの習得	岩塚久案子	野尻智周	栗田暢之
	災害が起きても、命を守る備え (BCPにおいて日頃から何を備えるか考える)	木村裕亮	小山真紀	伊藤三枝子
	地域・家庭と連携した学校防災教育	栗山基	岩井慶次	野尻智周
	地区防災『気づき』	長野陸雄	村岡治道	野尻智周

	実践計画テーマ	塾生	主担当	副担当
九期生(2024年度)	明日に向けての防災・減災	伊藤尚美	岩井慶次	伊藤三枝子
	金華地区防災計画と金華16地区防災計画の策定	林憲和	岩井慶次	野尻智周
	日常から使える子育て防災対策	眞武美奈子	伊藤三枝子	野尻智周
	地域の協力者を見つけ健全な避難所の運営に協力して頂く地域の方と活動体制を整える	柚原邦春	栗田暢之	野尻智周

※2016, 2017 年度は副担当制度を導入していません